

認知症作業療法 活動報告（概要）

当協会は、認知症アップデート研修を中心に認知症支援にかかる人材育成に取り組んでいる。昨年度は基礎編、応用編、報告会と3回シリーズで同研修会を実施した。また、今年2月には認知症の人と家族の会と連携して市民公開講座を行い、3月には県協会会員の認知症支援に関わる実態把握のための調査を行った。今年度の認知症アップデート研修は、基礎編、応用編（事例検討会）、実践編（カフェの企画・運営）という構成で実施している。実践力の向上はもちろん、地域の現状を知り、行政や地域の要請に応じていける人材育成につなげていきたい。

市民公開講座

「認知症になっても住みよいまちってどんなまち？」をテーマに2019年2月11日に認知症の人と家族の会と連携し、市民公開講座を実施した。講座後に、講師と参加者がカフェ形式で意見交換を行った。



公開講座の様子



カフェの様子

アンケート調査

2019年3～4月に「認知症支援に関わる作業療法士の現況調査」を行った。回答数156件、回収率は15.4%であった。大多数が所属施設において認知症支援に関わっているという回答であったが、施設外の事業についてはまだ参画は少ない状況であった。アップデート研修等を通して、こうした状況を改善できるような取り組みを行っていきたい。

地域支援事業などへの参画状況



アンケート結果

認知症アップデート研修2019

2019年度は基礎編、応用編、実践編という構成で企画しており、基礎編は6月30日に実施、47名の参加があった。

応用編は8月18日に実施、28名の参加があった。「MCIや認知症初期の方の地域支援を考える」をテーマに事例検討を行い、初期段階であるがゆえの課題や支援の在り方を検討した。また、地域資源についても話し合うことができた。

実践編は10月から4回シリーズで実施する。基礎編、応用編で学んできたことを「認知症カフェの企画・運営」という形で実践していく。2020年1月に一日限りのカフェを開催する予定である。この経験をきっかけに受講者が地域の事業に参画できる一助になればと考えている。



基礎編



応用編

今後の展開

- ・ アップデート研修会（実践編）の開催
- ・ 2020年1月にカフェの運営
- ・ アップデート研修修了者の活躍の場の検討